

10月5日（日）主日礼拝レジュメ

「心は何に支配されていますか」 使徒の働き 5章1～11節

アナニアとサツピラの夫婦と4：36、37に出てくるバルナバの行動

37節「所有していた畑を売り、その代金を持って来て、使徒たちの足もとに置いた。」5：1～「アナニアという人は、妻のサツピラとともに土地を売り、妻も承知のうえで、代金の一部を自分のために取っておき、一部だけを持って来て、使徒たちの足もとに置いた。」所有していた土地を売り、その代金を持って来て、使徒たちの足もとに置いたのは同じで、違っていたのは、バルナバは畑を売った代金を持ってきたのに、アナニアは一部を持って来たということ。8節の妻サツピラの言葉から、彼らは、持ち物を売った代金のすべてを持って来たと言いつつ、代金の一部を自分のために取っておき、一部だけを持って来た。彼がそのようにした理由は3節「なぜあなたはサタンに心を奪われて」＝心がサタンによって満たされていた。

心がサタンに満たされているか、聖霊に満たされているか。

4節「売らないでおけば、あなたのものであり、売った後でも、あなたの自由になったではないか。」自由とは権威のうちにあるとの意味。つまり持ち物に対してアナニアは支配権を持っていて、自分の意思でどうにでもすることができたということ。神様は所有物に対して私たちの支配権にゆだねられます。すべてを主は私たちに任せておられるのです。神様が与えてくださっている自由には必ず責任が伴う。その中でサタンに心を奪われて、聖霊を欺く＝神を欺くという悲しい罪を犯してしまう可能性がある。その責任も問われる。

5節と12節に「これを聞いたすべての人に非常な恐れが生じた」とあります。実際に、アナニアとサツピラはそれぞれ欺きの金を使徒たちの足もと

に置いて、そして神にさばかれることにより、使徒たちの足もとに自分の死体を置くこととなった、これほどまでに厳しく罪をさばかれる神を私たちは恐れ、罪を正しくさばかれる神に対する大きな恐れが、教会の中に、また個人においてもなければならぬ。私たちがイエス様の十字架を仰ぐ時に、私たちはしばしばキリストによる罪の赦しと贖いとそこにある神の愛とあわれみと恵みを強調するが、十字架でキリストが人類史上最も残酷だと言われるほどの苦痛を受け、なぶり殺しにされるほどに、神の罪に対するさばきは本来耐えられないほどの恐ろしさであり、そこから私たちも救われたことを知るべき。

私たちのうちに聖霊が宿っているということは、神の賜物の故であり、大きな恵みであり、幸いなことであるが、それは、神が内におられるということであり、どれほど私たちは恐れをもって身を慎まなければならないことだろうか。そして聖霊を欺くということは、聖霊の語りかけに従わない、聖霊の支配にすべてを委ねないということ。そこにサタンのつけいるすきができる。だからこそ私たちは聖霊に満たされる歩みをしていきたい。